

自己点検・自己評価 2025 年度

株式会社アークアカデミー
アークアカデミー新宿校

■自己点検項目

1. 教育理念・目標

1. 1. 学校の理念、目的・目標や育成する人材像が明確になっているか。……………評価5
当校は、教育基本法および学校教育法の趣旨に基づいて、留学生に対する日本語教育を行い、世界に貢献する人材を育成することを目的としている。学校の理念は（世界への架け橋）に象徴されるように生徒が日本語を学び母国と日本をつなぐ人材になることを目標としている。生徒は日本語のみならず、日本文化、日本社会を学び地域社会とのつながり協働を図り、社会に貢献できる人材を目指すものとする。これらの目標とする人材像は明確であり、教職員一同理解を深める学習会を年に4回実施している。

1. 2. 学校の理念、目的・目標は、社会のニーズに合致したものになっているか。……………評価5
当校は、生徒の夢を実現するために、効率的な日本語学習を目指し、常に教育の質の向上に努める教員、参照枠に基づいたカリキュラム、日本語のみで教授する直接法という教授法にて授業を実施している。なお、習熟度別の日本語クラスを実施し、確実な日本語能力を向上させている。日本語の学習のみならず、地域社会との協働も実施し、現実、社会に貢献できる人材を育成する方策を明確にカリキュラムに反映させている。加えて、学習者自身が学習目標を立て、実行し振り返り再計画するという自律学習能力の推奨を図っている。

2. 学校運営

2. 1. 学校の運営体制が日本語教育機関の告示基準を満たしているか。……………評価5
当校は、日本語教育機関の告示基準及び同解釈指針に基づいた学校運営を行い、長期にわたり適正校選定を受けている。また告示基準第1条第1項第45号に基づき、告示基準適合性について定期点検を実施し、その結果を保存している。

2. 2. 学校の理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか。……………評価5
校長が運営方針を示し役員会にて次年度の予算とともに提示され、役員の承認を得た上で教職員に周知している。

2. 3. 組織運営や人事、財務管理に関する規定や意思決定システムが整備されているか。…評価5

当校は、部門が教務部門と事務部門に分かれている。運営としては校長が統括し、管理職として副校長、事務局長、教務主任が目標、計画を設定し、主任が現場の教職員を率いて業務を実行している。日々の業務上の諸問題は現場レベルで解決し、解決できない問題は上の部門レベルに、さらには校長を含め協議し最終的に解決している。また、運営方針や事業計画は、学期の初めの教職員全員参加の会議で共有化し、効率的運営のための体制を整えている。

2. 4. コンプライアンス体制が整備されているか。……………評価4
個人情報を含む書類は文書取扱規定、文書保護規定、個人情報保護規定等に則り適切に管理している。コンプライアンス教育については、外部で実施されるコンプライアンス研修への参加を希望した教職員がいた場合にそれを認めている。今後は全教職員が定期的に研修を受け、理解し実行できるよう体制を整備する必要がある。

3. 教育活動

3. 1. 教育理念に沿った教育課程が体系的に編成されているか。……………評価 5
教育理念に沿ったコースデザインを行っている。クラスは習熟度によって分けられており、学期ごとの到達目標、授業内容、使用教材、成績評価を定めている。その上でカリキュラムを編成し、教員はその内容にそって授業を行っている。コースデザインの検討として、3か月の学期中、中間と期末に振り返りを行っている。中間振り返りでは主に到達目標の進捗状況を確認し、状況によって後半の教室活動を調整している。期末の振り返りの内容は次期のコースデザインの改定に反映させている。

3. 2. 成績評価や進級、修了の判定基準は明確であり、適切に運用されているか。……………評価 5
学期ごとに各科目とも 5 段階（S・A・B・C・F）の絶対評価を実施している。評価はコースデザインで定めた評価項目をもとに、学期初めに生徒に説明した上で、授業担当の教員が学期末に行う。評価をする際、本務等教員も共同で行い、評価の妥当性を高めている。

3. 3. 教育課程の改善のために取り組みがなされているか。……………評価 5
学期中間及び終了時、授業を担当した教員、本務等教員が振り返りを行っている。また、学期中の生徒とのカウンセリングや、学期末のアンケートで生徒からの意見も聞いており、それらを参考に改善事項を検討し、次学期以降のコースデザイン改訂等に反映している。

3. 4. 教員の指導力向上のための取り組みはなされているか。……………評価 5
新任教員については、教案のチェック、授業見学、それらのフィードバック等、担当の本務等教員による研修を行い、OJT 研修にて、さらに実践的なスキルや業務知識を身につけさせている。教員全体については、定期的に校内で勉強会や実践発表会、外部研修を行っている。また、現在抱えている問題については随時勉強会を行い、その課題の解消を図っている。学会などの外部研修に関するポスターを掲示し、参加を促すとともに、広い視野を持つために本務等教員が参加した勉強会の

内容も共有し全体の指導力向上に努めている。

4. 学修成果

4. 1. 生徒の日本語能力の向上が図られているか、適切に把握しているか。……………評価 5
生徒の日本語能力については、毎学期のテストにより把握する。テストは毎週または課ごとに行うアチーブメントテスト、中間、期末テストを実施している。評価は数値化される試験だけでなく、評価観点等工夫したルーブリック評価等も用いている。生徒の成績はデータで管理し、授業担当教員だけでなく、共有されている。本務等教員が随時、確認できることより生徒の状況が常に把握できる状況になっている。

4. 2. 生徒の進路を適切に把握しているか。……………評価 5
学期内に担任教員が行っているカウンセリングにより進路希望のヒヤリングを行っている。カウンセリング情報はファイルにまとめており、翌学期に情報が引き継げるようになっている。進路については、カウンセリングだけでなく、本務等教員が進路アンケートをとり、その内容を担当教員と共有している。進路選択の相談、必要書類の確認、面接練習等、進路が決定されるまで支援している。生徒には進路先決定の根拠となる書類の提出を求め、そのコピーをファイリングし管理している。

5. 生徒支援

5. 1. 生徒の進路に関する体制が整備されているか。……………評価 5
各クラスの担任教員が中心となり、進路支援を行っている。担任教員と本務等教員はお互いに報告、相談するなど連携しながら進めている。進路はカウンセリングだけでなく、日々の授業の前後の時間を用いて、生徒の進捗状況を確認し、進捗していない生徒については促す等、進路が決まるまで支援を行う。また、学期ごとに目的別の進路セミナーを開催し、生徒に必要な情報を周知している。本務等教員は外部機関を使って積極的に情報収集し情報の共有化を図っている。情報は学内に専用のコーナーを設け、指定校推薦校、主だった学校の受験スケジュールはポスター掲示、募集要項などの書類はファイルで管理し、学習管理システム(LMS)を通じて進学フェアの情報を周知している。また、生徒が容易に情報を得られるよう工夫している。多くの大学で求められている日本留学試験、日本語能力試験などの外部試験も団体申し込みを行い、多くの生徒が受験しやすい環境を整えている。

5. 2 就職を希望する生徒に対する支援体制が整備されているか。……………評価 5
定期的に校内セミナーを実施し就職活動に必要な情報を周知している。また、セミナーだけでは情報が伝わりにくい場合もあることから、希望する生徒に情報を届けるため、メールや学習管理システム(LMS)を通じて情報を発信している。また、希望先が多岐にわたるため、生徒のニーズに合わせた個別面談を行い、就職活動の進捗並びに履歴書、職務経歴書の確認など具体的な就職支援を行っている。個別に在留資格や在留資格変更までのアドバイスも行う。

5.3 生徒の相談に関する体制が整備されているか。……………評価5
個々の生徒に対応するため、様々な相談窓口を設けている。基本的には学期中に担任教員がカウンセリングを行い、それを担当の本務等教員と共有することで的確にアドバイスが行える体制をとっている。また、言語スタッフが母語での対応を行っている。相談手段も対面だけでなく、メール、電話等緊急な状況にも対応できるようにしている。相談内容としてメンタルヘルスの不調が疑われる場合は、外部の医療機関とも連携し診療を促す取り組みも行っている。生徒の状況に関しては、個人情報に留意した上で、事務局と教務部が共有し、アドバイス内容についても意見交換をしている。

5.4 生徒の心身の健康の管理や生活指導の支援体制が整備されているか。……………評価5
教務部と事務局が連携し、担当制のもとで生徒支援を行っている。毎日の出欠状況の確認、体調不良の生徒への個別連絡やアドバイスなどを行っている。また、状況に応じて個別面談や家庭訪問を行うほか、言語スタッフによるサポートや急病な事故やケガ等の緊急事態への対応の実施についても生徒に事前に案内、周知している。さらに月に一回、出席状況を確認する会議を行い、生活指導方針や支援方法について協議している。生活指導にあたっては、担任教員、本務等教員、主任教員というように段階を追って対応し、状況によっては両親にも連絡するなど支援の協力を依頼している。加えて、生徒の状況に応じて生徒と専門機関を繋ぎ、適切な支援につなげる体制を構築している。

5.5. 防災や緊急時における体制が整備されているか。……………評価5
防火管理者・防災管理者を配置し、消防計画を所管消防署に提出している。また、定期的に通報訓練、消火訓練、避難訓練等の防災訓練、救命講習を実施し、教職員や生徒の安全・防災意識を高めるとともに、有事の際に備えている。さらに全生徒の避難訓練を実施し、災害や緊急事態発生時に迅速かつ適切な行動がとれるように備えている。

6. 教育環境

6.1. 学校の施設・設備が十分かつ安全に整備されているか。……………評価4
施設・設備は整備されており、老朽化した設備に関しては随時確認を行っている。調べ学習に備え教室内のWIFI環境を整えている。また、生徒の授業時間外の交流や自主学習のためラウンジスペースを設けている。加えて、産業医の指導のもと教員室をはじめとする校内の衛生状態の点検・改善に取り組み、生徒および教職員が安心して働ける環境づくりに努めている。

6.2. 教材は適切か。……………評価5
生徒は毎学期コースデザインで設定した教材を購入している。教材を補助するため、教員が副教材を作成し授業で使用している。

6.3. 学習効率を図るための環境整備が行われているか。……………評価 5
各教室内には、パソコンと TV モニターもしくは電子黒板を置いている。教員は各自 USB 等に教材や資料を入れて教室内に持ち込み、パソコンと TV モニターまたは電子黒板を接続して提示している。授業のシラバス閲覧や課題提出には、LMS を利用している。また、図書室を設け、日本語能力試験、日本留学試験用の参考書だけでなく、漫画や小説等、生徒の興味に合わせた図書も用意し貸し出している。

7. 入学者の募集

7.1. 入学者の募集は適切に行われているか。……………評価5
生徒募集にあたっては留学目的、日本語力、学習意欲、経費支弁能力等を考慮し、問題なく日本語学習を継続できる生徒を選抜している。
各国で優良な仲介業者との連携、オンライン説明会の実施、学校の公式 HP や SNS 記事を投稿することにより、生徒の募集活動を行っている。

7.2. 募集情報は正確に生徒に伝わっているか。……………評価5
提携する仲介業者現地事務所を訪問して直接、学校の募集情報について案内をしている。直接会えない場合もオンライン面談を行っている。
英語・中国語・韓国語・ベトナム語に対応できるスタッフが在籍しており、仲介業者を通さない生徒に対しても適切な言語で案内が可能である。また、各国向けにオンライン説明会も実施している。
パンフレットは日本語・英語・中国語版、募集要項は日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語を作成している。そのほか、ベトナム語、インドネシア語、タイ語等で募集要項を抜粋した留学コース案内も作成している。

7.3. 授業料は適切か。……………評価5
授業料は他校と比較して適切であるといえる。

8. 財務

8.1. 中長期的に財務基盤は安定しているか……………評価 4
経営計画書は每期更新して作成し、授業料収入はおおむね計画書通りに達成してきており、定員に近い募集ができています。

8.2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。……………評価 5
短期及び中長期の経営方針と経営目標が明確化され教職員に周知されている。

8.3. 会計監査は適切に行われているか。……………評価 5

会計監査は、適正に選ばれた外部の監事により、業務および財産の状況について行われている。
また、顧問税理士と連携し、適切な会計処理を行っている。

8. 4. 財務情報の公開の体制はできているか。……………評価 5
本校に在学する者その他利害関係人から請求があった場合、財産目録、貸借対照表、収支計算書
等閲覧公開している。

9. 法令順守

9. 1. 出入国管理難民認定法令および各種関係法令の順守を理解し、適切に運営されているか。
……………評価 5

日本語教育機関として、生徒募集、在留管理及び上陸・在留諸申請において常に「留学」
の在留資格該当性及び上陸許可基準適合性に留意し、その他資格外活動許可、入管法に
定める各種届出義務等を適切に履行している。

9. 2. 自己点検の実施と改善およびその公開を適切に行っているか。……………評価 5
日本語教育機関の告示基準第 1 条第 1 項第 18 号の点検・評価を実施し、その結果を公
表している。今後も公表方法や点検評価項目の整理・改善に努めていく。

10. 地域貢献・社会貢献

10. 1. 日本語教育機関の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。……評価 4
所管の消防署の協力を得ながら、教職員および生徒の避難訓練を定期的に実施、災害
に対する情報共有と備えをおこなっている。また、地域の町会に加入し、地域活動への参加
を通して、地域住民との交流および連携の強化を図っている。今後も、地域社会との関係構
築を一層邁進していきたい。

10. 2. 生徒のボランティア活動の支援の取り組みを行っているか。……………評価 4
公益財団法人新宿未来創造財団へ生徒を繋ぎ、イベントへのボランティア活動の支援を行
った。今後は、地域行事への参加に加え、街のゴミ拾いボランティアなどの美化活動等、さら
に生徒の社会参加意識や地域との繋がりを深める取り組みを推進していきたい。

10. 3. 公開講座等の取り組みを行っているか。……………評価 5
当校では、日本語教育を通じ、諸方面に向けた社会貢献に取り組んでいる。日本語教育学
会主催のキャリアパスフォーラムに協力機関として参加し、日本語教育に関心を持っている
参加者に対し、日本語学校の現場やキャリアパスについて紹介した。更に、国連難民高等教
育プログラムの選考試験への協力等、日本語教育に関連する様々な活動に寄与している。

自己点検・自己評価

■評価項目作成にあたっての参考

「日本語教育機関の告示基準」

「日本語教育機関の告示解釈基準」

■評価基準:5 段階

5:達成 4:ほぼ達成 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討 1:改善が必要